



2005 年日本国際博覧会（愛知万博） 基本計画骨子



1. 愛知万博の全体概要

開催の概要

- | | |
|-----------|---|
| 1) 開催の目的 | 21 世紀の人類が直面する地球規模の課題の解決の方向性を発信するため、国際博覧会に関する条約に基づき、多数の国・国際機関の参加の下、地球時代の新たな国際貢献として開催される。
壮大な文化・文明創造事業
日本から世界への発信
現在から未来への発信 |
| 2) 名 称 | 正式名称：2005 年日本国際博覧会
略 称： 愛知万博(EXPO 2005 AICHI) |
| 3) テーマ | 「自然の叡智(Nature's Wisdom)」
<サブテーマ>
宇宙、生命と情報(Nature's Matrix)
人生の“わざ”と智慧(Art of Life)
循環型社会(Development for Eco-Communities) |
| 4) 開催期間 | 2005 年 3 月 25 日 ～ 2005 年 9 月 25 日 (185 日間) |
| 5) 会 場 | 愛知県瀬戸市の南東部、長久手町の愛知青少年公園及び豊田市の科学技術交流センター予定地 |
| 6) 目標入場者数 | 1500 万人以上 |

開催の基本方針

- | | |
|--------------|---|
| 1) 事業企画の基本方針 | 生命、宇宙など未知の自然へのアプローチ
IT の徹底した実用化と新たな実験
自然と共にある暮らしの喜び
楽しく魅力的な高齢社会のモデル
アジアの国々を可能な限り包含した世界各国の文化・文明との対話
環境負荷の低い、循環型社会のモデル |
| 2) 事業実施の重点方針 | 多様な形態による市民参加
中部地域の発展と技術力の活用
広域連携のネットワークの構築
楽しさ、おもしろさの演出 |

開催地域の特質とロケーション

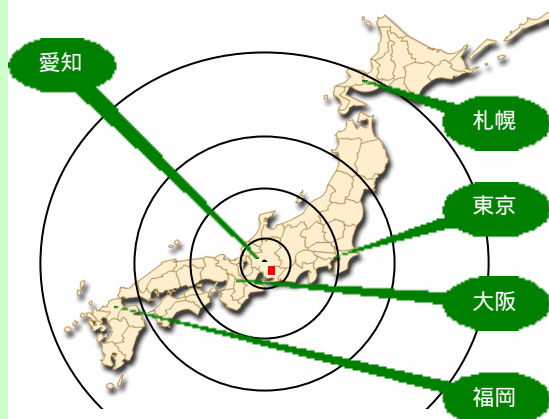
1) 中部圏・愛知は日本列島の中心に位置するハートランド・オブ・ジャパン

愛知万博の交流の中心舞台となる中部圏・愛知は、文字通り日本列島の中心に位置し、日本の文化・歴史・社会システムの縮図ともなっている。

また、日本を代表する日本アルプス山系や白山山系等の山岳地帯に包摂され、そこを源とする美しい木曾三川は、豊かな生命を育む丘陵地帯と濃尾平野を流れ、母なる伊勢湾に注ぎ、雄大な太平洋に連なる。

中部圏・愛知は、日本の地理と地勢の中心を占めるばかりではなく、自動車や鉄道における高速交通体系の要であり、2005年の愛知万博の開幕にあわせて中部国際空港も開港される。

■ 中部・愛知は日本の中心



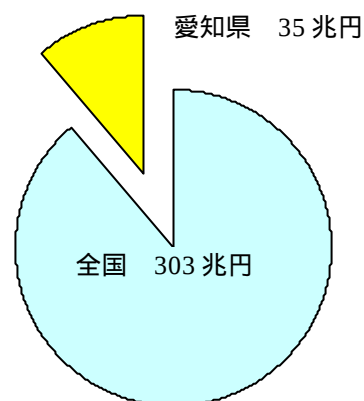
2) 愛知・東部丘陵地域は、各々の時代でモノづくりをリードしてきたハイテクランド

愛知・東部丘陵地域は、古代・中世・近世・近代・現代の日本のモノづくりをリードするハイテクランドとして活躍している。

1億年前のマグマの働きによって作り出された日本で最高と評価されるこの地域の陶土は、1300年前に陶磁器を中心とする焼き物を生み出した。また、織物を中心とする繊細な伝統工芸の500年に及ぶ歴史のほか、近代産業の基本となった鉄道、航空機、自動車等の乗り物の100年の歴史を背景として、愛知・東部丘陵地域は、高度な産業技術とモノづくりの知恵と人材を育むハイテクランドと言える。

近年では、アジアや世界との交流を推進する「地球交流圏」づくりにも、産・官・学・市民が積極的に取り組んでいる地域である。

■ 製造業出荷額



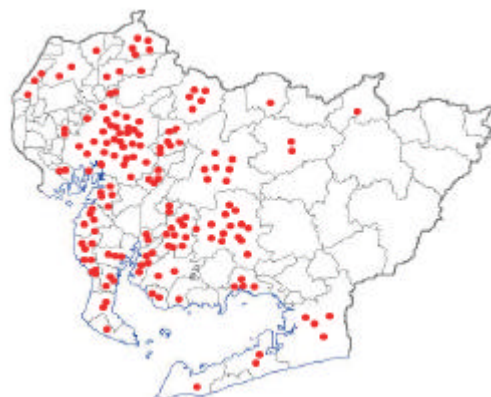
平成12年工業統計調査

3) 開催地域は未来の産業文化観光を担う地域

モノづくりを中心に発展してきたこの地域には、歴史・文化資源に加え、数多くの企業博物館や産業遺産、最新の産業技術の集積などの産業文化観光資源が豊富にあり、日本三大都市圏の一つの中核都市である名古屋市を拠点に、将来の日本の産業文化観光を担う地域としての発展が期待されている。

開催地域のモノづくりの経験と技術を生かすとともに、この地域を訪れる人々への産業文化観光を通じた啓発効果により、生命や宇宙への理解の深化、ITの実用化、また循環型社会のモデル形成などの実現が期待される。

■ 愛知県内の産業文化観光施設分布



企業博物館、見学可能な工場など